

セッション

4

よく分かる！ 勉強会の作り方

渡辺慎二郎（フリーランスプログラマー）
橋本正徳（(株)ヌーラボ・Nulab Inc.）

本セッションでは、これから勉強会を開催したいと考えている読者の皆さんに、開催にかかわるノウハウをご紹介します。ご紹介するノウハウはすべて、筆者2人が今まで勉強会を開催してきた経験に基づいています。勉強会は決まった形があるわけではありませんし、やり方や考え方は1つではありません。皆さんが考える理想の勉強会開催に向けて、事例の1つとお考えいただければと思います。

小さな勉強会のはじめかた

ここでは比較的少人数（2～30人）の勉強会のはじめかたについて解説します。

勉強会は図-1のようなサイクルが必要です。まず全体を理解し、1つ1つ詳細を決めていきましょう。



■ 準備編

テーマを決めよう

テーマ／目的は、とても大切です。まずはじめに、

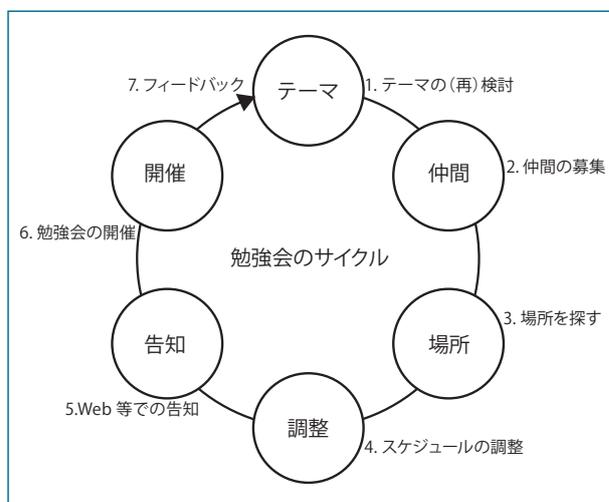


図-1 勉強会サイクル

何を目的として勉強会を行うのかを決めましょう。明確な目的があると、多くの方が賛同して集まることでしょう。一度決めた目的であっても、開催を重ねるごとに少しずつ修正してかまいません。時代の流れや参加者の意向で、途中で柔軟に目的が変わるのは良いことです。むしろ定期的に目的を見つめ直すことが、長続きする秘訣といえます。

仲間を募ろう

勉強会の目的に賛同してくれる仲間を探しましょう。会社、研究室の同僚や、友人だけでも構いませんが、参加の障壁をなるべく取り払って新しい参加者を積極的に受け入れると、新しい出会いや今までにない価値観が生まれます。

場所を探そう

勉強会最初の壁は場所を見つけることです。会場費が高くて頻繁に開催できないなどで勉強会開催が

暗礁に乗り上げることも少なくありません。勉強会の会場としては、以下のような場所がよく利用されています。

• 貸会議室

費用は参加者で折半すれば一人の負担は軽くなります。参加人数が少なかったり、欠席者がでると参加者の負担が増えてしまいますので注意が必要です。

• カフェ

2～4人くらいの人数でしたらカフェで行うことも可能です。電源がない、騒音があるなど制限がありますのであらかじめ確認しましょう。

• 公共施設

福岡には AIP cafe と呼ばれる NPO 法人高度 IT 人材アカデミー (AIP) が運営するフリースペースがあります。多くの勉強会は AIP cafe を利用して行われています^{☆1}。

ほかにも、企業や大学の会議室を借りるという方法もあります。プロジェクトや電源、無線 LAN に加え、最近では飲み物なども提供してくれる企業もあります。積極的にお願いをしてみるのも良いかもしれません。

Web でコミュニケーションしよう

普段は会わない人たちと交流するので、コミュニケーション手段は大変重要です。コミュニケーションツールはたくさんありますが、環境や時間に依存し、特定メンバしかアクセスできないことがありますので、状況を見きわめて使い分けましょう。

• メールングリスト

古くから利用されるコミュニケーション手段です。多くの人たちと障壁がなく使えるのが特徴です。

• skype

リアルタイムに交流できるため、意思の疎通が早いのが特徴です。オフラインの人とコミュニケーションできないので、全体的な話を進めづらいことがあります。

• Twitter

Twitter のハッシュタグを利用して会話をします。リアルタイム性が高く投稿も気軽なので頻繁に使いやすいです。また、会話に興味を持ったユーザが新

規参加者になることもあるのでオープンなコミュニケーションをすることができます。勉強会を開くという観点においては、最も重要なコミュニケーションツールの1つと言えるでしょう。

告知しよう

オープンな勉強会ならば (株) リクルートが提供する ATND の利用がおすすめです。ATND を使えば、気軽に、素早くイベント告知・募集・管理ができます。参加者もクリックするだけで登録できるので障壁が低く、多くの参加者を見込めます。しかし、気軽にキャンセルされることもあるので、厳密な参加者管理はできないと割り切りましょう。

■ 実施編

勉強会のスタイルをご紹介します。それぞれの特徴を紹介します。

輪講

論文や書籍を読み進めていきます。高い参加意識を持つ方が集まります。

講座

著名な方に講師を依頼して講演してもらいます。気楽に参加できるので、多くの参加者が集まります。最初の参加者の裾野拡大や、まだ知られていない新規技術を広めるのに向いています。

Lightning talk (LT) ^{☆2}

5分間のシンプルなプレゼンテーションを複数人の方に行ってもらいます。時間が短いため、気軽に発表できるのが特徴です。

Hackathon (ハッカソン)

作ることに満足してきたら、Hacking (技術を追求し改良すること) しましょう！ Hackathon は Hacking と marason をかけた造語で、1日中ひたすら Hacking します。アプリを作ったり、パッチを作ったり、改良コードを書いたり、なんでもありです。

^{☆1} AIP cafe
<http://konya2023.travelers-project.info/302-08/about.html>

^{☆2} Shibuya Perl Mongers : What are Lightning Talks?
http://shibuya.pm.org/blosxom/common/lightning_talks.nml

上述した流れを繰り返しながら勉強会の精度を高めていきましょう。最初はさまざまな失敗をすると思いますが、経験を重ねることで素晴らしい勉強会になっていくと思います。

大きな勉強会のはじめかた

ここでは、大きな勉強会（31人～100人以上を目安）のはじめかたについて解説します。



■ 準備編

勉強会は30人を超えたあたりから場所の確保が難しくなってきます。また、100人（地方だと50人くらい）を超えたあたりから人を集めるのが難しくなってきます。かかわる人も増え、いろいろと困難なことがあります。その分、得るものが多く、人生の輝かしい彩りになることは間違いありません。基本は、小さな勉強会と変わらないので、小さな勉強会を参考にしてください。大きな勉強会を開催してきて、気付いたことを追記する形で記していきます。

テーマを決めよう

小さな勉強会同様に目的を決めるのは大事です。小さな勉強会とは異なり、かかわる人が多くなると、意見が出過ぎて、どうしても決めづらいことがあります。しかし、決してその状況を悲観しないようにしましょう。「さまざまな意見があり、それぞれが熱意を持っていて、かつ、意見が出し合える場が作れているという状態で、とても良い傾向だ」とプラス思考に考えましょう。筆者の経験では、議論を重ねるよりもむしろ、「各自のやりたいことをやる」を突き詰めた場合に、良い結果になることが多々あり

ました。

多くの人が集まるというのはそれだけでも素晴らしいことだということに改めて気づくことになりました。

お金の管理について決めよう

100人を超えると、何かとお金が動くことが多くなります。また、技術的に魅力ある内容であれば、協賛をしたいという企業も出てきます。しかし、任意団体による運営では、お金を管理することは難しいですし、協賛を受けることのできる組織も持っていないことが多いでしょう。勤務先企業、もしくは非営利活動法人(NPO)などの法人の力を借りて、イベントを運営することをお勧めします。筆者らの場合には、ほとんどの勉強会は、利益を求めるものではないので、非営利活動法人の協力を得るようにしています。お金の管理（足りないお金の補助や、余剰金の扱い）を個人が行わないように、法人の仕組みを上手にお借りすることも重要なのです。

場所を決めよう

大きな勉強会は、人数が多いので、場所の確保がととても大変です。場所を決めると、スケジュールも自ずと決まってしまうことがよくあります。小さな勉強会でも利活用をした大学、企業からの支援が現実的でしょう。

• 大学

大学をお借りすると場所代はほぼ無料、もしくは、低額で大きなホールや複数の教室を貸していただけます。積極的に活動を手伝ってくれる学生さんもいるので、楽しさが倍増します。大学というロケーションなので、講座や、オープンスペーステクノロジー(アンカンファレンス)に向いています。

• 貸しホール

費用がとてめかかりますが、設備などが整っている場所が多く、豪華な演出をしたりするときにととても便利です。人気ホールもありますが、多くの場合スケジュール調整なども柔軟に対応してもらえます。講座、ワールドカフェ、パネルディスカッションに向いています。

・企業

勉強会に場所を提供してくれる企業は多くあります。勉強会を開催することによって、認知度をあげる、先進的なイメージを持ってもらうなど、広報としての意義を見いだしている企業が良いでしょう。このような企業は、今後も増えつづける傾向にあります。なお、ほとんどの企業が入退室管理を行っていますので、必ず協力をして、ご迷惑をおかけしないように、最善の注意を払ってください。場所にもよりますが、講座に向いています。

告知しよう

大きな勉強会は集客も肝になります。特設サイトなどを作り、勉強会のブランディングなどを強化しましょう。サイトでは、内容の説明や、当日のタイムテーブル、参加申し込みフォームなどを公開します。

■ 実施編

大人数で行う勉強会のスタイルはおおよそ「スピーカーがいてそれを聴く参加者」という講座になります。ですが、参加者にもっと積極的に参加してもらえると、さらに、にぎやかな楽しい勉強会になります。いくつかのスタイルをご紹介しますが、ページの都合上、詳しい説明ができませんので、キーワードだけ覚えていただき、検索していただければと思います。

ワールドカフェ

あるテーマに基づき、4、5人に分かれて、テーブルの上に用意された模造紙を使って会話を可視化しながら話すというスタイルです。参加者全員が意見を出すことができる仕組みを持っています。筆者らのおすすめです。

オープンスペーステクノロジー、アンカンファレンス

イベント、勉強会自体の大きなテーマは決めておきますが、事前に個々のアジェンダを参加者に決めてもらい、当日は、複数セッションを同時に開催し、すべてのアジェンダに対して議論します。問題意識の高い人が集まり、積極的に発言するムードを作り出すことができます。

パネルディスカッション

掲げられたテーマについて、異なる意見を持った複数の討論者によって、公開で討議を行います。全員参加はできませんが、考えの違う人同士のやりとりを見聞きしてもらい、参加者が自分なりの答えを見つけることができます。議論進行のノウハウが一番必要なスタイルです。

■ やってみて分かる運営ノウハウ

複数人で運営しよう

主催者が一人だと仕事が多忙になったり、病気や怪我をした場合、勉強会も主催者がボトルネックになってしまっはけません。複数人で主催して、確実な開催を目指しましょう。

主催者と参加者のジレンマ

「勉強会」なのですから、主催者と参加者が同じ気持ちになることが理想です。しかし、残念なことですが、どうしても主催者と参加者間で温度差が発生します。これは極端に言うと主催者が参加者を「お客様」として扱い、参加者が主催者を「営業者」として接してしまうためです。以下のような工夫が考えられます。

- 主催者を定期的に交代したり、複数人で主催し、参加者にも主催者として活動してもらい、参加意識を強め、主催者と参加者の壁をなくす。
- 講演のような「主催者から参加者へ」の一方通行の関係を控え、輪講のような「参加者から参加者へ」の双方向な関係を構築する。

コントロールではなくファシリテートする

勉強会は参加するすべての人の公共的なものです。主催者が勉強会をコントロールしたり、上下関係を作ってしまうと皆が離れていってしまうことがあります。主催者は飽くまでファシリテーター（全体を調整する人）であり、決してアドミニストレーター（管理する人）ではないことを心がけましょう。

交流は懇親会で

勉強会の後の懇親会はとても重要です。なぜなら、主催者、講演者、すべての参加者が対等に話し合える場だからです。講演者やその勉強会の参加者と同

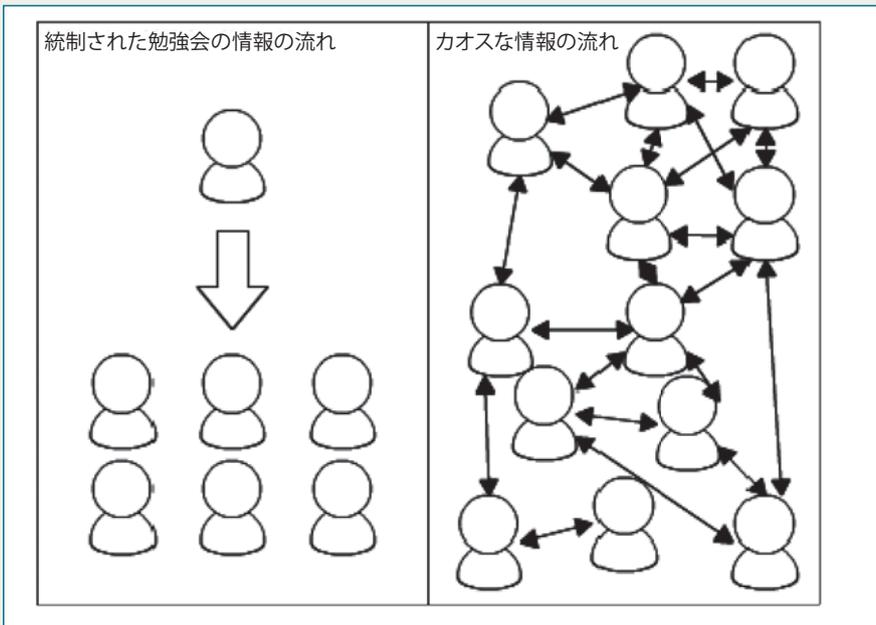


図-2 2つの情報の流れ

じ視線で話しあうことで新たな出会いや深い意思の疎通、情報交換を行うことができます。図-2をご覧ください。

「一番充実した時間は勉強会ではなくその後の懇親会だった」という考えはオープンスペーステクノロジー^{☆3}の起源^{☆4}とされています。統制された勉強会と混乱した懇親会をうまく組み合わせるのが重要です。

そのほか、書ききれないほどの、ノウハウがありますが、ぜひ、やってみて、体験してみて、感じて

ください。どこかでお会いしたときに、共有していただければうれしいです。Let's 勉強会!

(平成 22 年 1 月 15 日受付)

渡辺慎二郎 shikajiro@gmail.com

福岡を拠点に活動するフリーランスプログラマー“しかじろう”。Android, Flex, ajax 等の Web 技術に携わる。日本 Android の会福岡支部支部長として Android の勉強会を主催する。2010 年 6 月支部長を交代し、幹事として運営に携わる。

橋本正徳 hashimoto@nulab.co.jp

(株)ヌーラボ代表取締役。Seasar Conference や、WordCamp Fukuoka など大きなイベントから、極少数の勉強会などを行っている。人同士が楽しくふれあっている場を作るのが大好きで、その真逆が大嫌い。

☆3 グループの大小にかかわらず、そこに存在する複雑性やカオス、混乱や衝突に参加者に関与させる手法。

☆4 一番皆が充実していたと感じた時間が実はコーヒーブレイクだった。